

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡市東区下原2丁目15番31号		
自己評価作成日	令和4年5月6日	評価結果確定日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

今年の4月でいよいよ11年目を迎えようとしております。地域密着型サービスで閑静な住宅街に位置し四季折々の季節を感じられる自然環境に恵まれた施設です。隣接する小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護などと連携を取りながら、その方の生活スタイルに合った環境を提供出来るよう努めてまいります。昨今新型コロナウイルスの影響で外出や面会を制限せざるを得ない中、入居者様の見たいと施設内で出来る行事を盛りだくさん企画しております。また、昨秋より「グループホーム香椎下原だより」を発行させて頂いております。年4回程になりますが、入居者様の笑顔をご家族や地域の方に見て頂きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム香椎下原」は平成24年4月に開設。隣接する小規模多機能施設、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護などと連携を取りながら、その方の生活スタイルに合った環境を提供できるように努めている。母体は市内にて複数の介護サービスを運営している。公民館との繋がりも深く地域の情報をもったり、公民館行事にも参加していた。小学校、保育園も近隣にあり、保育園児が小規模多機能施設に訪問され、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、グループホームの利用者が小規模多機能施設にて楽しんだ。コロナ禍の中、思うような外出ができず、室内行事に力を入れ、クリスマス、お正月、豆まき、ひな祭りなどを企画した。昨秋より年4回「香椎下原だより」を発行しており、施設内での催しを、写真などでもお知らせし、笑顔が見られ、家族などから大変喜ばれている。今後も地域との交流を図り地域福祉の拠点となることが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和を行っている。また名札の裏にも事業所理念を載せており、職員全員が理念に基づいたケアが実践出来るよう取り組んでいる。	理念は「利用者様と家族同様の信頼を築いていく」「個人個人に合わせた介護を実践」「ゆっくりとした時間の流れを大切に介護を実践」「地域との交流を図り地域福祉の拠点となれるよう努める」という4つの柱からなる。各フロアに掲げてあり、毎日の申し送り時に唱和を行い又月1回のミーティング時に理念について話し合う。名札裏にも理念を載せている。職員は年1回個人目標を立て、理念に沿ったケアの実践に努めている。	月1回小規模多機能施設、住宅型有料老人ホーム、グループホーム、デイサービスなどの管理者が集まり会議を行っており、それぞれの入居状況とともに理念についても話し合いが行われている。今後も職員全員で理念を共有し実践につなげていかれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染対策の面から中々交流が出来ていないのが実情だが、こども110番の看板を掲示したり、町内清掃や廃品回収に参加している。	以前は餅つき、夏祭り、敬老会、秋祭りなどで地域との交流を行っており、公民館の軽体操などにも行っていた。コロナ禍の中、地域との交流は思うようにできないが、こどもが困った時に立ち寄ることができる「子供110番」の看板を掲示したり、職員が町内清掃や廃品回収に参加している。町内会に加入しており、回覧板は近隣の方が届けてくれる。	コロナが収束した折には中学校などの職場体験などを考えてみたらどうだろうか。公民館とのつながりもあることから、事業所の行事案内もパンフレット・ポステイングとともに公民館便りに乗せてもらうなど、相談されてみたらどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で、運営推進会議の開催が出来ず、書面にて入居者様の生活状況や事故報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスにて開催できておらず、二か月に一回、書面にての報告とアンケートを取らせて頂きご意見を頂戴したうえでサービスの向上に活かしている。	コロナ以前は家族1~2名、自治会長、民生委員、市役所、包括、訪問診療のクリニック職員、他のグループホーム職員らの出席があった。現在会議は開催はしていないが、事業所の取り組み、状況について書面にて報告し、意見などをアンケートにて収集している。意見は、サービス向上に活かしている。	「香椎下原だより」を送付し、家族に大変喜ばれているとの事。「香椎下原だより」の中に運営推進会議の議事録を、同封し、事業所の取り組み、状況などを家族にもお知らせし、意見、要望などをいただいております。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を福岡市に送付し事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	運営推進会議の議事録は福岡市に郵送し事業所の取り組み、状況を伝えている。運営上で困っている事や疑問点などがある時には相談をしたり、アドバイスを受けたりと行政や包括とは協力関係を築くように取り組んでいる。経費については本部が行政とのやり取りを行っている。介護保険の申請は郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、定期的に内部研修を行い議事録を残し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設け三か月に1回研修を行う。「接遇について」「認知症ケア研修」「介護職ができる医療的ケア」「法令順守」など月ごとに内容を決め担当制で研修を行っている。夜間センサーを利用している方がおり、家族には話をしている。月1回の全体会議、ユニットごとに分かれて行うミーティング時に話し合い、お互いに注意をしている。職員には意識調査を行っている。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修にて学ぶ機会を設け、高齢者虐待が見過ごされることのないように努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な内部研修にて学ぶ機会を設けている。また、利用者様に成年後見制度をご利用されている方もおられ、制度を活用した支援を行っている。	成年後見制度を利用している方が1名いる。職員は利用されていることを周知している。内部研修は担当制にしており、発表してもらい、利用者からの相談に備えてパンフレットも常備している。制度の利用を希望された時には、管理者が窓口になり、市、包括などに相談する。	社協などに、研修講師の依頼をされてみてはどうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には「重要事項説明書」に沿い十分な説明を行っている。退去時も十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他に年1回の敬老会にて意見交換の場を設けていたが、新型コロナの影響で開催出来ず、面会時や電話にて個別にご意見やご要望を聞いている。頂いたご意見はスピーディーに対応し、運営に反映させている。	運営推進会議の他に敬老会にて意見交換の場を設けていたがコロナ禍の中、開催ができなかった。家族の訪問はガラス越しで5～10分、利用者は固定電話で家族は携帯電話で話をしてもらったり、筆談で行い、利用者の顔つき、笑顔で安心されている。訪問時に家族から意見、要望を聞いたり、電話にて聞き取りを行い、スピーディーに対応し、運営に反映させている。	意見箱を設置してあるが、意見は入っていない。「香椎下原だより」は家族にとっても喜ばれているとの事。たよりの中に一筆便のようなものを同封し、意見、要望などを意見箱に入れやすく、されてみたらどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の代表者出席の会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃の職員間の会話でも意見を集め、職員で話し合い運営に反映させている。	月1回の代表者出席の会議にて意見、提案を行っている。個人目標を立て面談も行っており、日常的にも意見や気付きを聞いてもらい、相談しやすい。コロナ感染症には自分自身、家族も十分注意をして仕事に取り組んでおり、職員間でも話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の代表者出席の会議にて現場が円滑に動く為の意見を出し合い話しあっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用は性別や年齢を理由とした排除は行っていない。また、職員はその能力や特技(料理・飾りつけ等)を活かして生き生きと仕事にあたっている。	年齢は20歳代から70歳代と幅が広い。休憩場所、時間も確保されている。スキルアップ、研修参加、資格取得の支援にも前向きで体制も整っている。職員は折り紙、菜園の手入れ、洋裁などの特異な分野を生かしており又コーヒータムには認知症体操、クイズなどを利用者と一緒に出来ない、生き生きと仕事にあたっている。研修も勤務スケジュールを組み仕事上でいける。自己実現の希望もあり、それに向い、自己研鑽に励んでいる。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者一人一人がその残存能力を活かす事が出来るような関わりをもち、その人の人権を尊重するように業務中や会議の場で話しあっている。	日常的に管理者からの指導、啓発もあり職員は理解を深めている。理念にうたわれているように、その人らしさを大切に受け止め、支援の実践に取り組んでいる。雑誌、絵を見るのが好きな人、江戸時代の小説を読むのが好きな人、ぬり絵、編み物をしたり、それぞれに楽しんでいる。電話を取り継いだり、年賀状のやり取りも行っており、県外に住む家族とは電話で話している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画表を作成し内部研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で相互訪問は行っていない。運営推進会議で書面にて協力機関として自施設の報告やアンケートにてご意見を頂戴している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人からの聞き取り、ご家族や医療機関、ケアマネジャーからの情報をもとに、入居後の様子を観察しながら、本人が安心して過ごせる為の関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入居申し込み時、ご本人との面談時に質問、相談、要望等に耳を傾け関係づくりに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何が必要なのかをご本人、ご家族と話し合い他のサービスを含めたケアプランを作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様と家族同様の信頼関係を築いていきます」と事業所理念にあるように、安心出来る関係が構築できるよう努力している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外部受診等、無理のない範囲でお願いし、ご本人をご家族とホームが協力しあいながら支えているという安心感がもてる関係づくりに努めている。		

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染が収まらない中、面会の制限は行っているもののガラス越しの面会であれば受け入れている。	コロナ禍の中、訪問はガラス越しで5～10分程度行ってもらっている。昔からの友人、趣味の教室の友人などもガラス越しで行っている。利用者の弟夫婦が住んでいる懐かしい場所に行き、車の中から弟夫婦に会えた。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と利用者が一緒に盛り上がるような話題を提供し、また孤立している利用者には他の利用者を交えて声掛けを行い、利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や医療機関と連絡をとり状況を聞き取りながら、今後の支援や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方は、日々の利用者の言葉や仕草、表情などを通して本人本位の支援を職員で話し合いケアプランを作成している。	入居時は管理者、ケアマネジャーが自宅、病院、施設等を訪問する。本人、家族からこれまでの生活歴、馴染みの暮らし方、要望、不安な事などを聞き取る。思いを表出することが難しい方には、表情、仕草などで思いをくみ取り、本人本位の支援を職員で話し合っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や生活リズム、生活環境等をご本人やご家族から聞き取り、ホームでも出来る事は継続して頂けるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や心身状態等を介護記録に残し、申し送りやミーティングにて職員間で情報共有を行い現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直しは定期的もしくは状態変化時にカンファレンスを行い、本人、ご家族、主治医の意見を反映しながら作成している。またケアプランを元にしたモニタリングチェック表があり、サービスが実施出来たか毎日チェックを行っている。	職員は利用者を1～2名担当している。定期的もしくは状態変化時にカンファレンスを行い、課題、問題点を見つけ出す。目標の達成状況など、プランを基にしたモニタリングチェック表があり、変化を見逃さないようにしている。本人、家族の意向、医師、看護師などの意見を反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、身体状況は介護記録、ケアの実践・結果はモニタリングチェック表、気づきや工夫は連絡ノートに記入し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況や希望により併設の住宅型有料老人ホームや小規模多機能ホームと情報交換を行い柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、防災訓練やボランティアの受け入れは中止している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は協力医での往診を受けられたり、外部の医療機関へ定期的に通院に行かれたり、ご本人やご家族の意向で選ばれている。状態変化時は、速やかにご家族に報告、かかりつけ医に連絡を行い指示を仰いでいる。	受診は、本人及び家族の希望を大切に、外部の医療機関で受診されたり提携医での往診を受けたりしている。外部の医療機関へは家族に対応してもらっており、受診後の情報は職員全員で共有している。提携医は月2回往診があり、24時間対応が可能である。看護師が2ユニットで3人おり、日常的な健康チェックもなされており、家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを当施設の看護師に報告し、往診に看護師が立ち会い介護職からの情報を担当医へ報告、指示を仰ぎ適切な医療が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの情報を伝え、安心して治療に専念し出来るだけ早くホームに戻ってこれるような支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医・看護師・介護職を含め、ホームで出来る事、出来ない事を話し合い、協力し、本人の状態により看取りを受けられる体制を作っている。	今までに2名様の看取りを行った。看取りの研修は看護師が行っており、職員も理解を深めている。利用者又は家族に対し説明し、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有する。重度化、終末期を迎えた場合には、意向を再確認し、チームで支援に取り組んでいる。	

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて利用者の急変時や転倒時の対応、AEDの使い方を勉強している。			
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍以前は年2回の消防訓練を地域の方も参加されていた。台風や大雨時には2ユニットの夜勤者に加えて緊急対応時の職員を待機させている。	コロナ禍以前は、地域の方の参加があった。実施した訓練を通して、マニュアルに基づき、避難経路や避難、消火の方法、担当の確認などについて理解を深めている。台風や大雨時には、2ユニットの夜勤者に加えて緊急対応時の職員を1名待機させている。備蓄は水、缶詰、即席めんなどを用意している。		消防署よりDVDを借りる予定であるとの事。視覚からの情報も理解しやすい事があると思われ、ぜひ情報収集されることを期待している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇について」や「個人情報」に関しての内部研修を実施している。実践では排泄や入浴などのプライバシーに関わる時は羞恥心に配慮した対応を心掛けている。また写真の利用に関しては事前に同意を頂いている。	「接遇について」「個人情報」などに関して内部研修を実施している。内部研修は職員が持ち回りで行っている。言葉かけに気が付いたときは管理者又は職員同士で注意をしている。ミーティング時に話し合いを行っている。写真の利用に関しては家族から同意を得ている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により思いや希望を表す事が出来ない事もあるが、出来る限り自己決定できるように働きかけを行っている。			
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念「個人個人に合わせた介護を実践していきます」にあるように、利用者一人一人のペースを大切にして支援を行っている。			
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った洋服はご家族が買って来られている。訪問理美容を利用し、髪型は本人と話し合いながら決めている。			
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注ながらお魚からお肉、各種麺類までレパートリーは多い。月に数度はお弁当を頼んでいる。季節の行事食では職員の手作り料理を提供している。まだ、出来る方にはお盆拭きをお願いしている。	おかずは外注している。ご飯、汁物は事業所で作っている。食事形態はペースト、ぎざみ食、とろみをつける。菜園で取れたナス、ピーマン、トマト、玉葱、カブなど季節の野菜が食卓に添えられることがある。行事食はおはぎ、ショートケーキなどを職員が作り、ケーキの飾りつけなどを利用者と一緒にこなう。できる方には、お盆拭きなどを行ってもらう。月3回お弁当の日があり、利用者も楽しみにしている。		

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量、体重はカルテに記録し主治医に報告し指示を仰いでいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、確認、必要に応じて介助も行っている。夜間は義歯を預かり毎日消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表にて声掛けや誘導を行っている。また、そわそわするなどの仕草を出来るだけ見逃さないようにして声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、声かけや誘導する事で失禁が減った。水分を適切に摂取し膀胱を刺激する事で尿路感染症が改善された。排便においては便座に座ったり、入浴時に腹部マッサージを行う。血圧が90以下の時は座薬を使用できないため、医師の指示で座薬を使用する。一人ひとりの力や習慣を活かしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝コップ1杯の水分を摂って頂いたり、運動・腹部マッサージを行い便秘にならないよう心掛けているが薬に頼らなければならない方もいる為主治医に相談し対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴。入浴を拒まれる方は無理強いをせず日にちをずらしたりして実施している。個々の入浴の仕方を尊重している。皮膚観察の場としても活かし異常時は看護師や主治医に報告している。	週3回午前中に3~4名入浴を行う。拒否のある時は、人を変えて声かけをしたり、日をずらしたりする。好みのシャンプー、石鹸なども使用できる。季節のゆず湯などを楽しむこともある。皮膚観察の場として活かし、異常時は看護師、主治医に報告している。入浴は大事なコミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はない。夕食後はテレビを見て過ごされる方もおられるが音や照明を徐々に落として安眠出来るよう心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は全職員は閲覧・捺印し個記録に保管している。処方に変更がある時は、申し送り時に口頭で伝え、連絡ノートに記載している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や興味のある事を活かし、その方の能力に応じた支援をしている。		

R4.3自己・外部評価表(グループホーム香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の為外出は控えているが、天気の良い日は車中ドライブを楽しんだり、中庭でお茶の飲んだりしている。	コロナ禍以前は「初詣」「つつじ見学」「ぶどう・りんご狩り」など外出レクに行っていた。現在外出は思うようにできないが、事業所前の広い駐車場で長テーブルを出しお茶、おやつを楽しんだ。近隣の公園に桜を見に行ったり、天気の良い日は車中ドライブを楽しんだりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しいためホームでご家族了承の上お預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様もしくはご家族からご希望があれば電話の取次ぎは行っている。また年賀状など郵便のやり取りの支援も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁面に季節の飾り付けや行事の思い出を貼っている。ゆっくりとした音楽でゆっくりとした時間を過ごして頂くよう工夫している。	事業所は高台にあり、空気の流れはとても良い。リビングや廊下の壁面には、桜の貼り絵、ちぎり絵が飾られ春の訪れが感じられる。リビングには優しい音楽が流れ、午後のひと時をゆっくりと過ごしている。加湿器も設置され適切な湿度が保たれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、入居者様同士でお話しを楽しまれたり、玄関前にもソファを置き一人の時間を過ごしやすいように工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼット、洗面台は備え付け。テレビ、仏壇、化粧台など使い慣れた物の持ち込み自由。本人のスペースとして居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド、カーテン、エアコン、洗面台が備えつけてある。タンス、テレビなどは持ち込まれており、寝具は自分の好きな花柄の布団を用意している。家族の書いた書・趣味のスタンドグラス・押し花の額などが部屋に飾られ、愛着のあるものを身の周りに置き、落ち着いて過ごされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共用部分には手すりを設置。トイレには「便所」、お風呂場には「お風呂」と掲示しすぐにわかるよう工夫している。各居室にはご家族様了承のもとお名前を貼って自分のお部屋、他者のお部屋とわかるよう工夫している。		